

さささねるる令和7年4月1日

令和7年（2025年）度

学校法人練馬みどり学園 田柄幼稚園 経営計画

The Management Policy of TAGARA Kindergarten 2025

はじめに

令和7年（2025年）は、多くの方が穏やかな元旦を迎えられたことと存じます。令和6年能登半島地震を思うと夢のようでもあります。それもつかの間、1月13日には宮崎県で最大震度5弱の地震が起きました。私たちは日常的に災害を意識し、備えなければならない国民と申せます。

他国の情報にもアンテナを張り巡らす必要があります。米国大統領に返り咲いたトランプ氏の政策に目が離せないほか、経済や紛争地域が気になります。田柄幼稚園にも世界の出来事は有形無形に影響を及ぼし、情報収集と対策が不可欠です。

本園は、ひとや社会に不安や不信を覚えるのではなく、共に生きる道を模索する子どもたちの育成に注力し、その達成に資する全身教育ⁱを推進しています。堅実な経営を目指し、今年度も職員一丸となって教育の質の向上に取り組みます。

文中敬称略。一部西暦のみ。

1. 方針

(1) 田柄幼稚園憲章、経営理念、教育理念

「田柄幼稚園憲章」ⁱⁱのもと、幼児教育機関に必要でかつ十分な教育と保育に取り組みます。経営理念「社会の宝である子どもの教育と成長課題に真摯に取り組む」ⁱⁱⁱを全員が共有し、経営環境を整えます。

今年度も、本園の教育理念「子どもは何ものにもかえがたい宝である」（創立者 吉田富五郎）を肝に銘じ、全身教育を通じて園児たちに「いのち（生命力）・こころ（心力）・からだ（体力）」の大切さを伝え、「4つの自（自発、自立、自律、自尊）」を促し、教育目標「ただししい子、うつくしい子、つよい子、あかるい子」の育成に努めます。

本園は、練馬区立田柄小学校に隣接する地理的条件を生かし、学園地域にある幼稚園として成長を目指します。田柄小学校と本園とは、「なかよし門」を介して災害時の避難訓練や避難場所としてつながっているほか、運動会は校庭をお借りして開催しています。

「なかよし門」からは、愛宕神社に通じる通路もあり、避難経路のほか教育や保育の時間に利用します。

(2) 園内整備

園庭づくりに ASOBIO（株式会社スマートエデュケーション）を導入し、畑や、熱中症対策などを踏まえた植栽および池や自然木を用いた遊具を設置した園庭に生まれ変わりました。「トコトコたがらんど」と命名し、園庭遊びの充実を図っています。

2025年度は引き続き安全管理を徹底し、園庭での遊び方に一層の工夫を凝らします。地域に根差した幼稚園^{iv}としてよりよい教育環境を創造していくなか、季節の移り変わりに目を留める園児が増えています。

（3）感染症拡大防止と保護者支援

2023年4月1日以降、教育機関におけるマスク着用は「学校教育活動の実施に当たっては、マスクの着用を求めないことを基本とする」^vことが示されました。本園は行政の指針を踏まえつつ、幼児教育機関として健康と安全を重視し、感染症流行に備えて実情に即して園内でのマスク着用を徹底します。

利用者の皆様は、お子様の体調に不安等がある場合、登園は控えてくださいますようお願いいたします。例年、12月と1月はインフルエンザやコロナ等の感染症予防のため、職員はマスク着用月間としています。感染症罹患予防や防止のため、通年で各種伝染病^{vi}の感染拡大防止に努めます。

就業等のほか社会活動に従事する保護者は年々増加傾向をたどり、預かり保育への期待が高まるなか、支援体制（定員68名）を整えております。お子様の安全管理上、本園の利用規約を順守してください。

2. クラス編成と体制

今年度は以下のとおり、在籍園児数が確定しました（4月1日付）。○は学年主任。

- ① 満3歳児学年（定員1クラス25名）
1クラス（いちご組）合計25名
担任2名（内1名○）＋学級経営補助
- ② 3歳児学年（定員1クラス29名）
2クラス（ばら組29名、○ひまわり組29名）合計58名
担任1名＋学級経営補助
- ③ 4歳児学年（定員1クラス35人）
2クラス（○キリン組18名、コアラ組19名）合計57名

- ④ 5歳児学年（定員1クラス35人）

3クラス（つき組23名、○ほし組24名、そら組23名）合計70名

総計208名（男児104名、女児104名）

4歳児・5歳児学年にも必要に応じて学級経営補助が入ります。中途退園・入園により園児数に加減有。

通常教育は、満3歳児学年「プレ初年期教育」、3歳児学年「初年期教育」、4歳児学年「中間期教育」、5歳児学年「幼小接続期教育」に位置付けております。

（1）クラスと特別教室のアプローチ

通常の教育時間では一人ひとりの個性や特性を踏まえた教育を実施し、預かり保育では家庭的で安心安全な保育に教育的観点を導入してそれぞれさまざまなアプローチ（教授法）を駆使して取り組みます。

正課カリキュラムとして「英語」「論語」「体育（運動遊び）」（2018年度導入順）を全学年で実施します。正課および学年毎のシラバス（年間教育計画）は、ホームページに掲載しています。学事日程を踏まえて、担任は週案を作成し、日々微調整しながら人工的産物と自然的産物を適宜取り入れ、教育目標の達成を目指します。

にここ教室ときらきら教室は、預かり保育主任が全体を運営します。正規・非正規職員による手厚い体制で取り組みます。

わくわく教室とすくすく教室は、未就園児担当主任が運営計画を作成し、運営に当たります。

以上のとおり、園児の教育と保育を担う体制が整い、新年度がスタートしました。陣容は、正規職員19名、非正規職員15名（含看

護師1名)、園医2名、薬剤師1名、派遣(安全サポーター)1名、非常勤講師5名、顧問1名、教育支援委員10名、カウンセラー1名。正規職員以外常勤ではありません。

(2) 特別教室と課外教室

本園は4学年のクラス運営のほか、特別教室(わくわく・すくすく教室[2歳児枠。プレ初年期教育に準じる]、不定期に開催するトコトコたがらん広場[1歳児~2歳児枠]、にこにこ教室[練馬子ども園。預かり保育<短期・長期>]、きらきら教室[延長保育]、しるでき^{®vii}[5歳児学年希望者対象])、しるでき+[®][修了児と他園卒園児対象])を運営し、課外教室として外部の5団体を受け入れています。

わくわく教室とすくすく教室は幼稚園に親しむ目的で設置し、子どもたちが集団社会生活を体験する機会としています。後期は親子分離のプログラムを実施します。

トコトコたがらん広場は、早期教育や幼稚園教育に関心のある保護者や、同年齢の子どもどうしの交友を広げたい保護者の皆様にご案内しています。事前の申し込みは不要です。直接本園にお越しください。

ちなみに、幼稚園は文部科学省管轄です。子どもが通う“初めての学校”に位置づけられています。

2024年度に本園と契約を交わした団体(課外教室。代表)は以下のとおりです。順不同。

- ① らくがきっ子体操クラブ 佐藤 弘道
- ② 田柄バレエ教室 松本 美代子
- ③ ECC 英語教室 ECC 幼児教室推進課
- ④ 西武囲碁教室 浅野 康人

⑤ 英語でリトミック 佐藤 久子

⑥ その他、体験講座をご案内することがあります。

例

- ・茶道体験講座(茶道裏千家教授 深沢 宗建)
- ・たがらん[®]子ども俳句道場
指導 菊地 悠太(「河」同人/選者)
古閑 裕海(104句会主宰。「かいぶつ句会」同人。「氷室俳句会」会員)など。

3. 教育環境

(1) 健康・安全

園児の健康と安全は最重要課題のひとつです。感染症対策として、来園される方は健康確認(検温ほか)と、状況に応じてマスク着用(乳幼児は任意)をお願いします。

1) 感染症予防とマスク着用

マスク着用等は文部科学省、厚生労働省、世界保健機構(World Health Organization: WHO)、東京都、練馬区などの指針や指導を基に本園の運用規定を策定しております。

今年度も、各種感染症の予防と拡大防止のため、職員は健康確認(通年)および必要や状況に応じてマスク着用を義務付けます。園児のマスク着用は任意です。

来園者は本園の経営環境の保全にご協力ください。本園利用規約に示した事柄等に協力が得られない場合、ご利用をお断りすることがあります。

2) 健康管理

長引くコロナ禍を経て、幼児期に必要なして十分な顔認識行動の習慣や、コミュニケー

ション能力開発と訓練の機会が削がれ、人にとって不可欠な人間関係構築力が減じるのではとの懸念が尾を引いています。新型コロナウイルス感染症は、5類感染症に移行（令和5年5月8日）後、行動規制やマスク着用への要請は緩和されましたが、本園は状況に応じて対策を講じます。

保護者の皆様には、季節によって流行する感染症や季節等を問わない感染症に園児たちが翻弄されないように、体調の変化に気づいたときは欠席や受診など、早めの対策をお願いします。

また、基礎体力をつける点から「早寝早起き三食運動」を習慣づけていただければと存じます。子どもの成長を損ねないためにも「睡眠、食事、運動、遊び」などに割く1日の時間配分にご留意ください。

近年、子どもの視力低下の傾向が取りざたされています。テレビや携帯電話との付き合い方や、食事中や読書のさいの姿勢などにもご注意ください。

本園は、毎日出欠記録をとっています。感染症罹患患者数の報告に基づく感染状況や園児等の体調等により学級・学年閉鎖や、休園を視野に入れて対応します。ただし、預かり保育は罹患していない園児に限ってお預かりを継続します。

健康管理の観点からは、園児の健やかな成長を願い、保護者との意思疎通を十分に行うとともに行政機関等関係各所との連携を図ります。本園利用者と職員の健康に配慮し、安心安全な環境で過ごせるように努めます。

（2）園児尊重の教育と保育

本園は、教育理念を具現すべく全身教育を推進し、「いのち（生命力）」「こころ（心）」「からだ（体力）」の大切さを伝える教育に取り組んでいます。

土台となる七育（徳育、知育、体育、技育、美育、食育、遊育^{viii}）に、正課科目（英語、論語、体育）をはじめ発達過程に応じたカリキュラムの充実に一層努めます。

1) 4つの自「自発、自立、自律、自尊」

幼稚園は社会の縮図であり、多様性の集合体として多様な価値観に直面する場所となುತ್ತあります。本園は個々人に配慮し、誰にとっても心地よい空間の構築を目指します。幼児らの「ひと」たる成長を支援するうえで「自発、自立、自律、自尊」の芽を育むことは、将来、独立したひとりの人間として社会で生き抜く力の獲得を視野に入れてのことです。

それにはまず、私たち自身が内なる偏見の存在に気づくことや、これまで蓄積してきた学修知を見直すことが不可欠です。こうしたことは、保護者や関係各位各所の協力と理解に負うところ大です。

2) 家庭と幼稚園とで共有したいこと

子どもたちの心身の健やかな成長のために家庭でも幼稚園でも、①挨拶励行、②衛生的で安全安心な環境構築と保持、③清潔な衣服の着用、④1日三食摂取。暴飲暴食や偏食防止、⑤十分な休養と睡眠、⑥よい言葉遣いや振る舞いの励行、⑦親子のスキンシップや他人との良好なコミュニケーション、⑧外気に触れ、適度な運動、⑨美的で創造的なものやことに触れる機会増、⑩季節の移ろいや変化に気づく感性を養うことが肝要です。愛情や

褒め言葉などは場面に応じて適切かつ積極的に表現しましょう。

すると、おのずと幼児の心身が安定してき、幸福感を持って成長することが見込めます。こうしたウェルビーイング(幸福、健康)の実現には家庭と幼児教育機関との共通認識や、協力が重要要件となります。

3) 環境と教育

「三つ子の魂百まで」は幼児期に目にし、耳にし、口にし、手にしたものは経験値としてその子の一生に知らず識らず影響を与えているのであり、人格形成に深くかかわっていることをいう諺です。幼児教育の重要性にかかわる諺として知られ、乳幼児期の環境や社会との触れ合い、教育や体験の重要性を示しています。そこに、親子関係や、子を取り巻く社会など、広く環境がかかわっています。

ひとの成長には「ひと・もの・こと・ほん・しぜん」との出会いやかかわりが不可欠です。日常にはさまざまな出来事が待ち受けています。乳幼児期は人生の初期の重要な人格形成期に位置づけられることから、生活者に必要な社会性や行動の仕方などを身につけるほか、性格形成のうえからも大事な時期です。性格形成は「行動と考え方のパターン」が影響しているといえます。幼年期にこそ深く考慮し、老年期に至る道程に備えるべきなのです。そこに、愛と信頼関係は必須です。

4) 人の原点にある温かいもの

ひとの原体験に、温かい乳房に触れ温かい母乳を口に含んだ体験があります。誰であれ、温かい言葉や態度で接してもらいたいと望むことは温かいものに触れ、提供された原体験からして当然のこととなります。逆に、

そうした体験が奪われるようなことがあったら、成長過程での損失や打撃は計り知れないものがあるといえます。

乳幼児期は、愛され抱きしめてくれる人間関係や経験が最も豊かに提供される時期に重なります。子どもが社会の「宝」として育つためにも、人生の初期に無条件かつ無償の愛があることこそが生涯の支えとなるのではないのでしょうか。

本園の教育理念である「子どもは何ものにもかえがたい宝である」を具現すべく、教職員は園児一人ひとりの個性を見極め、尊重し、教育の質の向上に励み、成長にふさわしい教育活動に取り組みます。挨拶励行は本園のよき伝統です。

保護者や、地域の方々に支えられていることに感謝し、本園の教育と運営に理解と協力を得るための努力を惜しみません。

(2) 教職員の育成と支援

本園は、職員のキャリアアップとスキルアップを奨励し、研究を教育現場で実践する職員、そして現場の課題を研究課題とし、試行錯誤する職員を支援^{ix}しています。

本園は、園児の教育や保育にあたるうえでエビデンス^xを重視しています。職務は以下のことがらに留意し、漏れのないように細心の注意を払って取り組みます。

- ① 5W1H「Where, What, When, Who, Why, How」(キップリング^{xi}の詩の表現順)の徹底
- ② 「ハウレンソウデンセツカク(報告連絡相談伝達説明確認)」(古閑博美)の徹底
- ③ 5S (Seiri, Seiton, Seisou, Seiketsu,

Shituke)の徹底

③ 研究会^{xii}や研修会への積極的な参加などです。

職員の研修機会は、正規・非正規を問わず研鑽の機会として設置しています。

また、幼児教育界にふさわしい人材育成の観点から、教育実習生や研修生、インターンシップ生を積極的に受け入れています^{xiii}。

(3) 顧問、教育支援委員、カウンセラー、園医、薬剤師、看護師、弁護士

本園は、理事会（理事長1名、理事5名、評議員7名、監事2名）、顧問1名、教育支援委員10名、カウンセラー1名、園医2名、薬剤師1名、弁護士（事務所）1名、会計事務所を擁しています。教育支援委員は各専門領域の観点から園児観察とカンファレンス、研修や保護者のための学修講座の講師として登壇してもらいます。

本稿では教育支援委員のひとりである広島大学大学院人間社会科学研究科日本語教育学プログラム准教授の奥村安寿子委員（博士）をご紹介します。同委員とは幼児教育に資する研究を推進するほか教育面で支援を得ています。それらは、①4歳児学年の園児を対象にした「ことばの調査」実施、②全学年対象の園児観察と必要なカンファレンス、③特別教室・5歳児学年園児希望者対象「しるでき[®]」学修支援などであり、保護者の子育て相談などです。

カウンセラーは企業でのカウンセリング経験が豊富であり、職員は第1学期に面接を実施し、その後は希望に応じて申し込む制度を設けています。主として職員のメンタル面での健康管理の一助としています。保護者には

無料相談の場として提供しています（初回のみ本園負担。2回目からは自費）。保護者がカウンセラーと面談することに、本園は一切関与しません。連絡先は次のとおりです。

「田柄幼稚園相談（カウンセリング）
soudan@nmg.ed.jp」。秘密厳守。

園児の健康診断は園医（内科医、歯科医）が担当し、薬剤師は薬品類について助言します。毎年度、園医によるエピペン講習と顧問弁護士による就業規則や情報管理、ハラスメント等の研修を実施しています。

(4) 地域連携—地域に溶け込み愛される幼稚園—

地域の方々とともに田柄幼稚園ならではの行事や奉仕活動を企画し、実現しています。以下に主な活動を6件紹介します。

1) 地域への奉仕

園児は、教育時間内に園外教育の一環として愛宕神社の境内で遊んだり自然観察したりすることがあります。境内で集めたドングリや木の葉は制作等に活用しています。

また、日ごろから親しんでいる神社に感謝して清掃活動を行います。落葉の季節には落葉を清掃し、夏は地域の祭りを楽しむ園児と保護者の姿があります。保護者の自転車置き場としても利用させていただいております。

2) 収穫体験

園児等は、園外教育として、毎年、吉田茂雄教育支援委員の農園（エコファーム ヨシダ）で収穫体験を行います。各学年で収穫する野菜はジャガイモ、大根、人参などで、それぞれの発達段階に合わせています。

新鮮な季節の野菜はひとの健康を支えるだけでなく、味覚の発達にも影響を与えます。

職員のほか、在園児の保護者が付き添うことがあります。

3) 教養文化講座

本園は2018年度より「教養文化講座」を企画し、運営しております。それらは以下の通りです。

① 歌舞伎・文楽鑑賞教室（国立劇場公演事業）

会場は都度異なります。歌舞伎・文楽鑑賞教室の観劇は、我が国の演劇や劇場文化に触れる機会です。奮ってご参加ください（希望者。有料）。園児の関係者はどなたでもご参加いただけます。

② 子ども落語会

本園に噺家 柳亭小燕枝師匠を迎えて、学年ごとに開催します。落語の話芸や所作を通して芸能やコミュニケーションに親しむ機会としています。園児たちが笑いのツボを押さえて聞く姿は最高です。

その他、適宜開催します。

4) 近隣社会との交流

「クラーチ・ファミリア光が丘公園」の利用者の方々と交流し、コロナ禍のなかでもビデオメッセージを送ったり、季節ごとにプレゼント交換をしたりしてきました。にこにこ教室利用園児（修了児）が就学前に訪問し、歌や園長考案の「あいあい体操」を一緒に楽しむほか、肩たたきのプレゼントをして交流します。

2025年度より「アズハイム練馬ガーデン」の利用者の皆様とも交流する予定です。

5) 飼育と栽培

修了児や在園児の保護者からカブトムシや金魚、球根などの寄付があり、植物や小動物の成長観察や飼育に取り組んでいます。

(5) 自己評価・学校関係者評価委員会

毎年、職員にアンケート調査を実施し、集計結果は職員研修の場でフィードバックしています。2024年度から保護者へのアンケートを実施し（記名式）、職員のアンケート結果と併せて園長は総括し、現状を職員と共有するとともに課題を確認します。

2024年度は3月12日に自己評価について職員研修を実施し、3月13日に自己評価・学校関係者評価委員会を開催し、外部の識者の意見を参考に2025年度に備える機会としました。委員は、次の方々です。順不同。

- ・練馬区立田柄小学校校長 伊藤 雄一
- ・広島大学大学院人間社会科学研究科日本語教育学プログラム准教授、本園教育支援委員 奥村 安寿子
- ・立教大学法学部特任教授 薬師丸 正二郎
- ・学校法人練馬みどり学園 田柄幼稚園 おひさまの会会長 稲垣 友紀子

本園からは理事長、園長、事務長が出席し、事務局は教務・学務担当が務めました。

(7) 規程とマニュアル作成

毎年、利用規約ほかマニュアルを見直し、職員ほか必要に応じて周知しています。

安全管理のうえからは、通園バスの運行管理規定をより一層丁寧かつ厳しく見直しました。通園バスご利用の保護者の皆様にはご理解とご協力を切にお願いいたします。

園庭遊び中に園児が一人で園外に出ないように監督するのは無論ですが、ご家庭にも安全教育への協力を求めるものです。

2025年度も地震や火事、不審者等を想定した避難訓練は毎月実施し、9月は保護者の引取訓練を行います。危機管理マニュアルは都度見直し、職員間で情報共有を徹底します。マニュアルは最低限必要な準備と心得、今後とも危機管理意識を強固にして取り組んでまいります。

まとめ

2018年に園長として着任以来、田柄幼稚園憲章の策定や、職員のキャリアとスキルアップ、ほかにも園庭整備などさまざまな課題に取り組んでまいりました。より一層親近感と信頼を抱いていただける幼稚園を目指しています。

幼児教育の重要性に鑑み、世界に羽ばたく人材育成を視野に入れて、園長が提唱する「全身教育」を推進してまいります。未来科学の発展や、多様化する社会に的確に対応するうえで必要な能力の芽を損なうことなく育むことに力を注いでまいります。なおまた、最新の知見や科学技術のみならず「故きを温めて新しきを知れば」^{xiv}というように、先人の言葉や歴史に学ぶことを重視し、遊育や体育を重視します。

2024年度もこれまで同様、本園は保護者の皆様と緊密に連携し、園児の安全と健康に配慮して経営してまいります。

末尾ながら、教育と保育にあたる職員は園児を愛して止まない職能集団です。個々人の職能をより適切に発揮することができるよう、保護者およびご利用の皆様のご理解とご協力を重ねてよりしくお願いいたします。

文責 古閑 博美

ⁱ 定義：全身にさまざまな刺激を与えることにより心身の善的発達に寄与する教育（古閑博美 2018）

ⁱⁱ 2021年4月1日策定。5項目から成る。学校法人練馬みどり学園 田柄幼稚園憲章

Charter of Tagara Yochien

1. 私たちは、学校法人練馬みどり学園 田柄幼稚園（以下、田柄幼稚園という。）を園児たちの健やかな成長を担う教育機関としてふさわしい環境に整えます。
2. 私たちは、田柄幼稚園の教育理念のもと、教育目標の達成を目指し、全身教育を推進するため幼児教育者に必要な研鑽を積みまします。
3. 私たちは、田柄幼稚園への社会的期待に応えるべく不断の努力を怠らず、保護者ならびに地域社会との連携を図り、推進します。
4. 私たちは、田柄幼稚園が定める規則に則り教職員の働く環境を整え、世界を視野に入れた教育と研究に取り組み実践します。
5. 私たちは、田柄幼稚園が世界に繋がっていることを認識し、国際目標のSDGs（持続可能な開発目標）ⁱⁱに賛同し、なかでも「4 質の高い教育をみんなに」に積極的に取り組みます。

ⁱⁱⁱ 2023年4月1日、幼児教育に従事する職員および園児とその家族の幸福を目指し、「社会の宝である子どもの教育と成長課題に真摯に取り組み続ける」と掲げた。

^{iv} 令和5年（2023年）12月9日、創立64周年を迎える。

^v 4文科初第2507号 令和5年3月17日

- 「新学期以降の学校におけるマスク着用の考え方の見直し等について」^{vi} 小児に多い伝染性疾患：突発性発疹、RSウイルス感染症（細気管支炎）、ヒトメタニューモウイルス感染症、溶連菌感染症、インフルエンザ、手足口病、咽頭結膜熱（アデノウイルス、プール熱）、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ肺炎、おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）、みずぼうそう（水痘）、りんご病（伝染性紅斑）、百日咳、はしか、風しん、膿疱疹（のうかしん）、耳の感染症、のどの感染症（レンサ球菌咽喉頭炎）、など。冬は気温の変化により免疫力が低下するため、感染症にかかりやすくなることに注意。
- ^{vii} 幼小接続準備講座「しるってたのしい できる うれしい」（古閑博美命名）の愛称。「しるでき」「しるでき+（プラス）」は田柄幼稚園登録商標。
- ^{viii} 遊育（ゆういく）は古閑博美の造語。遊びをとおしてまた遊びのなかで成長するための教授法。日本文化の伝統にもある「遊び心」（音楽や芸術を好むことや、くすぐり、ユーモアおよび滑稽などを解し、親しむ態度）の育成を含む。
- ^{ix} 「研究手当」以外の研究費支給制度。10,000円／年。個人および共同研究申請を園長が審査し、採用の可否を決定。2021年度～2022年度にかけて4人の教諭が幼稚園教諭一種免許を取得し、2023年度は1名が取得した。
- ^x エビデンスとは「背景に行動科学や疫学統計学、脳科学などの科学的根拠があり、再現性が担保できること」。『東洋経済メール』
- 20230408 閲覧
- ^{xi} ジョゼフ・ラドヤード・キップリング（Joseph Rudyard Kipling, 1865～1936）イギリスの小説家、詩人。『ジャングルブック』ほか。
- ^{xii} 職員は、園長が主宰する魅力行動学会研究会に参加（含発表。公開）するほか、練馬区私立幼稚園教育研修会の5領域（古閑は「言葉1 視聴覚教育班」担当理事）の研修にそれぞれの関心に従って参加している。ほかにも適宜対面式やオンラインでの研修会に参加することがある。
- ^{xiii} 2024年度は大学、養成所等、計5校受け入れた。教員のスキルアップとブラッシュアップの機会としている。その他、中学生の職場訪問や職場体験学習などを受け入れている。採用が確定した応募者（正規、非正規）には事前研修を実施している。
- ^{xiv} 吹野安・石本道明（平成11年）『孔子全書1 論語(1)』「論語卷の一 為政第二 27」159頁